

科目名	教育メディアプロデュース特講		
担当教員	篠原 文陽児		
対象学年	3年	クラス	51
講義室	S402	開講学期	春学期
曜日・時限	月4	単位区分	選択
授業形態	講義	単位数	2
受講対象	初等教育教員養成課程学校教育選修選択科目A		
備考			

**ねらいと目標**

教育活動は、OECDによるPISA調査(2012年)の結果を待たずともなく、経済状況と無縁ではない。  
 教授活動と学習活動両者における得に学習者の発達段階を考慮した教育の質を高めるため、印刷メディアと視聴覚及び放送メディアを含む電子メディア等の教育に果たす役割が、大いに期待されている。  
 教育目標を効果的に達成する補助手段としてのメディアの企画、制作について、「ヒト、モノ、カネ、情報」の4者を最適化しようとする教育工学的アプローチによるプロデュース過程を理解し、具体的な表現すべてに責任をもって、見(魅)せられる教育メディアの制作を行い、その活用を推進する知識と技能及び意欲を養う。

**内容**

1. 教育とメディア環境
2. 「プロデュース」の意味と意義
3. メディアの企画と制作及び評価

**テキスト**

特になし

**参考文献**

教育放送研究会(2012)「教育放送75年の歴史」日本放送教育協会  
 今野勉(2009)「テレビの青春」NTT出版  
 林直哉(2007)「高校生のためのメディア・リテラシー」筑摩書房  
 栗山民也(2007)「演出家の仕事」岩波書店  
 清水幾太郎(1995)「私の文章作法」中央公論社  
 外山滋比古(1986)「思考の整理学」筑摩書房

**成績評価方法**

授業時間中3回の演習レポート(30%)、および最終制作物(70%)を参照し、総合的に判断し評価する。  
 なお、出席点については毎回の出席が大前提になる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点を加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。

	回	内容
	1	オリエンテーション—授業の目標と期待される成果—
2	教育とメディア環境の現状	
3	プロデュースの意味と意義	
4	企画する・調査する(1)	
5	企画する・調査する(2) —演習(1)—	
6	企画する・調査する(3) —演習(2)—	
7	読む・書く(描く)(1)	
8	読む・書く(描く)(2) —演習(3)—	
9	読む・書く(描く)(3) —演習(4)—	
10	まとめる(1)	
11	まとめる(2) —演習(5)—	
12	表現する(1)	
13	表現する(2)—演習(6)—	
14	総合演習(1)	
15	総合演習(2) —発表と協議—	

授業時間外における学習方法	準備学習(予習、復習各2時間) (1)予習2時間は、前時での予告と授業計画を参照し、本時で扱われる事項(トピック)につき、教科書や配布資料等の要点及び疑問点を、既習事項や経験及び体験と関連させ組み合わせてまとめ、ノートに記述しておくこと。 (2)復習2時間は、授業内容の各事項につき次時まで説明できるようにすること。特に、疑問点はノートに明瞭に記述し、次授業開始時に質問ができるようにしておくこと。
授業のキーワード	視聴覚教育、放送教育、メディア、企画、制作、表現、活用、教育工学、e-Academiy Media Station
受講補足(履修制限等)	
学生へのメッセージ	
その他	演習を含む講義は、参考文献に加え、コンピュータ、DVD、プロジェクタ等のメディアを内容に応じて適切に選択し活用する一方、受講者の積極的な意見陳述等も活用し、融合的、総合的かつ具体的に進められる。特に、演習は、本学に整備されつつある「わくわくスタジオ」(e-Academiy Media Station)等の設備を活用する。 なお、最終制作物(作品)は、制作意図と内容及び質にしたがって、機会をみつけ、公的に利用することが、期待されている。